

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



中咽頭がん 治療編3 055：カッコいいお父さんであらねば。

2017年6月19日（月）（抗がん剤治療2/2回目・放射線治療39/39回目）

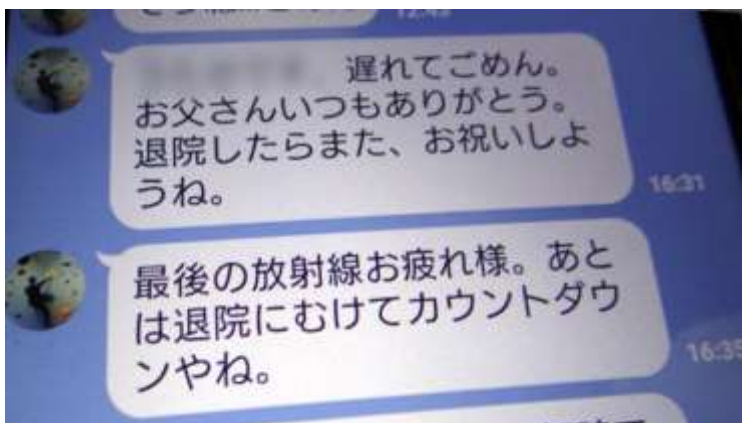
やりました！本日、放射線治療の
39回目が終了しました。

ウタが作ってくれたカレンダーにトキは
最後のハンコを張り切って押しました。

しかし、治療終了=完治ではありません。
結果も1か月後にしかわかりません。



諸々の副作用については、ここ数日、良くも悪くも変わらないことから、トキは『これがピークではないか？』と感じていました。問題は、このピークがいつまで続くのか？1か月なのか？1年なのか？それとも一生なのか？また、甲状腺がんの分でのヨード治療も残っています。とはいえ、『がんを治す』という前に、まずは、『抗がん剤と放射線の治療を無事に終える』ことを目標にしていたという点では、とりあえず達成です。



トモとウタから、メッセージが届きました。

『お父さんいつもありがとう』

ウタのメッセージがトキの胸を締め付けます。
トキは、ただただ、念じるように思いました。

『泥まみれになっても、恥じずに生きねば、こんな状態でも、カッコいいお父さんであらねば』

そして、夜。

乾燥した唇にリップを塗り、濡らしたマスクを付けたトキは、うつ伏せで、寝床のベストポジションを探しながら思いました。

『一体、いつ、どんな状態になったら退院出来るのだろうか？』

相変わらず、味覚はありませんが、頸周りの締め付けは猛烈にあります。そして、嚙んで嚙んで飲み込むのも大変な状態です。さらに、痛み止めが効かない喉の奥の口内炎が痛みます。祝！治療の最終日というのに、止まぬ副作用への不安により、トキは睡眠薬を飲んでも、なかなか眠ることが出来ませんでした。

⇒ **056** : 元の生活に戻る術も考える。